



三河のつばやき

みなさま、満床が長く続きご迷惑をおかけしております。院内でも改善策を出し合って何とかしようとしております。もうすぐ春が来ますがのど元過ぎれば...であってはならないと思っております。来年の診療報酬改訂では「地域連携」に関わる事柄での加算が多いようですが、それにとらわれずこの地域に必要なことを、引き続きやっていこうと思っております。具体的なご報告はもう少ししたらできると思います。

がん地域連携室 室長 三河 貴裕



安房地域医療センターでの勉強会開催

1月24日(火)・2月17日(金)に安房地域医療センターにて「在宅での緩和ケア看護勉強会」・「化学療法患者の薬剤管理勉強会」を開催いたしました。業務後にも関わらず多くの方にご参加いただきました。来年度も安房地域医療センターでの勉強会を開催したいと考えております。ご案内いたしますので、是非ご参加下さい。

在宅緩和ケア勉強会



薬剤管理勉強会



TOPICS

参加ご希望の方は事務局までお申込下さい

がん化学療法看護講演会

日程: 2012年2月28日(火) 18:00 ~ 19:30

講師: 癌研有明病院 がん専門看護師 花出 正美先生

演題: 病棟及び外来における化学療法患者の現状について

事例を踏まえて学ぶ

がんのリハビリテーション講演会

日程: 2012年3月7日(水) 18:00 ~ 19:30

講師: 広島大学大学院保健学研究科 教授 岡村仁先生

演題: 終末期におけるリハビリテーション

第4回房総がんケアフォーラム

日程: 2012年3月10日(土) 13:30 ~ 16:00

講師: 高野山大学スピリチュアルケア科 准教授 井上ウイマラ先生

演題: スピリチュアルケアの現場から見えてくるもの

~自分をみつめなおしてみよう、

そしていのちの輝きに触れてみよう~

会場は全て亀田総合病院K棟13階ホライゾンです

在宅医療と地域連携

地域医療支援部 部長 小野沢 滋

地域連携という言葉が叫ばれて、すでに長い時間がたちました。そして、何とか連携しようと皆で悪戦苦闘しているというのが現状ではないでしょうか。私もこの言葉の呪縛には長年悩まされてきました。

なぜなら、私はこの地で在宅医療を行うのに当たりももっとも効率が良いと思える方法、そして、もっとも質の管理がし易い方法を取ってきましたが、それは、『全て自前で行ってしまうこと』であったからです。亀田グループではそれが可能でした。鴨川の亀田クリニック在宅医療部は医師、看護師、ケアマネージャー、ホームヘルパー、管理栄養士、理学療法士からなる統合されたチームで約150名の患者をフォローしています。多くは要介護度4-5の重度、もしくは各種疾患の終末期の患者、認知症と片麻痺のご夫婦など、重症度の高い人たちです。

私は、少なくとも重症者を在宅でみるためには統合化された組織でみることが最善だと今も信じています。

では、地域連携はしなくていいのか、と言うとそうではありません。ただ、現状のように闇雲に、どんな患者に対しても、クリニックからの訪問診療、訪問看護ステーションからの訪問看護、介護支援事業所からのケアマネ、ヘルパーステーションからのホームヘルパー、というように多機関で関わる在宅医療を提供し、その人たちがたまに電話で話したり、数ヶ月に一回、ケア会議を開いたりという形の地域連携を行えば事足りるかと言えば、そうではないと考えています。

状態の落ち着いた患者や、家族がしっかりしていればそれでも事足りるでしょうが、それらが不安定な場合には質の高いケアは困難です。

介護力が急速に減少している現状では、多機関でケアを分割して行う通常の形の地域連携の他に、統合したサービスを行う当院のような、ある意味特殊な在宅医療機関と、通常のクリニックでの在宅医療とがどの様に機能区分し、連携しあうかというモデルを構築することが必要なのではないのでしょうか。私はこの形の地域連携こそが、今、求められているのだと考えています。

亀田総合病院との地域連携について考える



七浦診療所
田中 かつら院長

南房総市千倉町の南部にて七浦診療所を開業、診療しております。当地には6年前に移住。伝手もなく手探りで地域医療を始めました。専門はありましたが、ここでは体に関わるすべてを診なくてははいけません。それまでは都会の病院勤め。専門医、勤務医の時とは医療概念がまったく違うなぁと感じながら3年が過ぎました。

開業して1年くらいたったある日、遠い鴨川の亀田総合病院から、親しげな笑顔をお土産に、三河先生と連携室の方々がおいでになりました。僻地、ひとり...という孤独感からずいぶんと解放されたことを今、懐かしく思い返しております。
- 房州人は「義理固い」 -

今までつきあってきた先生との仲は続けたい。でも、診療所は近くて便利だし...。そう言われる患者さんが多くいらっしゃいます。「だからよお、高血圧は亀田の先生、それ以外はここで」ということになります。高血圧以外の疾患でのつきあいが始まると、今度は、「次の診察は3ヶ月後だから、それまで血圧が高いのを何とかしてくらっしえ」「血圧が高いことを主治医の先生には話をしましたか?」「そんなことはいわねえ」「...」言わなかった患者さんの顔の向こう側を、目いっぱい

想像しながら、「では、次の診察まで薬を追加しますから、ちゃんと話してくださいね」「言わねばだめか?」「だめですよ」そんな会話が日常にある。この微妙な三角関係から、医療連携とはなにかと考える日々です。

患者さんを主役として、いかにによりよい医療を提供できるか。これは大病院、診療所であってもかわりません。本来ならば亀田病院の先生方も患者さんのすべてを受け入れて医療を提供したいはず。でも現実には困難であることは、遠くからも理解できます。患者さんを通して、亀田病院の女房役も医療連携の一つの形ではないかなと思います。理想は痛いところ、痒いところに手が届く「古女房」になれるように、そして患者さんの「心」に寄り添えるよう、診療所スタッフ全員で精進する毎日です。ご指導よろしくお願いたします。

まだまだいろんな形の連携があります。大きな建物から一歩外へでると、ずいぶん違った世界があります。ぜひ亀田病院の先生も時には外へでて、いろんな可能性を探ってみませんか?この楽しみを三河先生の「独り占め」ではもったいないですよ。...老婆心ながらの一言...でした。

亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室
発行責任者: 亀田 信介
編集責任者: 唐鎌 房子
TEL: 04-7099-1261(内線7156)